



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

世界の子どもたちに 動ける自由と喜びを。



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

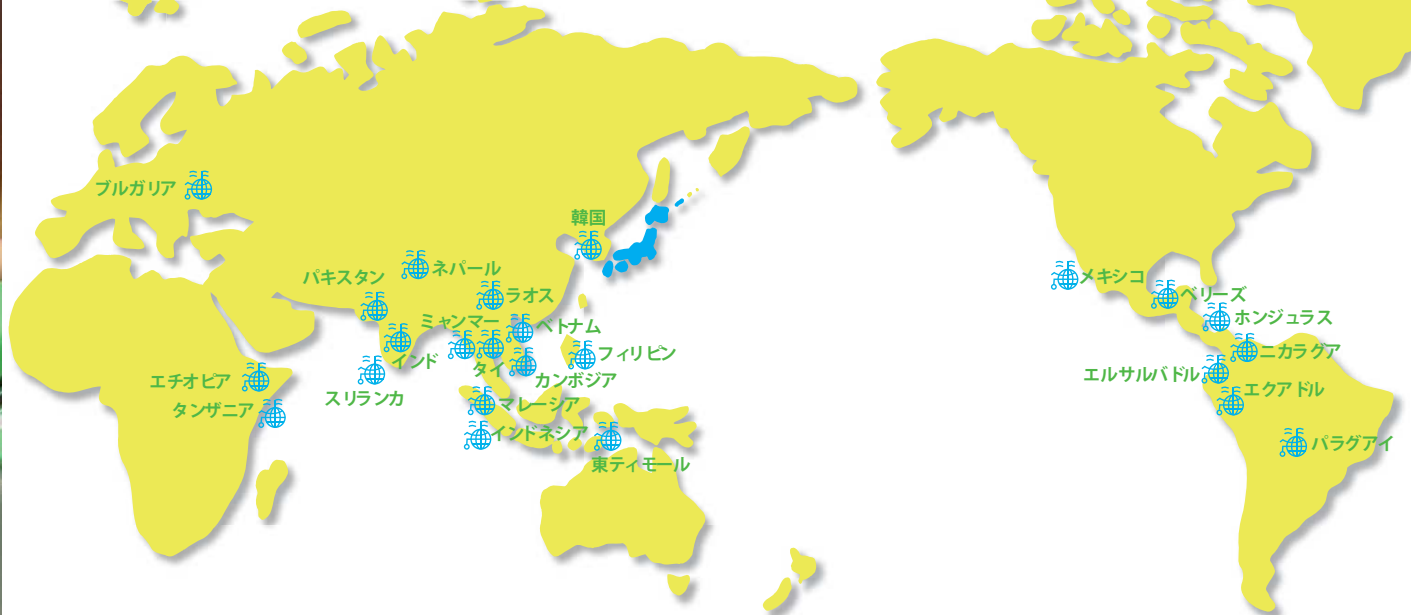


子ども用車椅子
これまでに
送り届けた国々

累計 **23** ケ国

5,969 台

2017 年 1 月 現在



「余命があまりないかもしれない」
がん闘病中であった私は
担当医の一言に衝撃を受けました。
脳性麻痺の子どもをかかえ、
全身にひろがるがんにおびえながら
闘病を続けてきました。
何かをしなければ、何かを残したい、
この思いが、わが子が成長して使わなくなったために
家に放置されていた障害児用車椅子を見て
海外の子どもたちに送ることに気付き
2004 年に活動を始めました。

私の呼びかけに、多くの方から共鳴と賛同をいただき
勇気づけられて活動を続けてきた結果、
当会が国内外で日本の NPO として認められ、
活動が定着してきたことは限りない喜びであり誇りに思います。

国内では多くの企業、団体、学校、
個人の皆さんのご協力ご支援をいただいたおかげで
海外の多くの子どもたちに動く喜びと笑顔が生まれました。
車椅子が彼らの自立支援や社会参加に役立つように、
これからも海外の恵まれない子ども達に送る
国際人道支援を続けていく決意です。
私たちの活動にさらなるご支援を下さいますよう
心からお願いいたします。

海外に子ども用車椅子を送る会

会 長 森 田 祐 和

発展途上国の 子ども用車椅子の実情



車椅子がないのでベッドに寝かされている
フィリピンの障害児支援施設の子ども達

発展途上国では大人介助用の車椅子を生産しているケースはありますが、障害児に適合する子ども用車椅子は、殆ど製造されていません。ほんの一部の国で海外 NGO の支援のもと、小さな作業所で自作するケースがあるにとどまっています。

大人用のなかで小型サイズの椅子を作っている国はありますが、主に移動用に利用するもので医療用のものではありません。

そのために保護者やリハビリセンターの物理療法士が座位保持や骨や筋肉の発達を助長するために子どもの状態に合わせて工夫して補助器具を作っています。

車椅子がなく不自由な生活を送っている子ども達





発展途上国では…

子ども用車椅子は現地でほとんど作られていないし、
輸入品があっても高価で入手することが困難です



障害のある子どもの多くは
家に置き去りにされて動くことも出来ず
不自由な生活を送っています



保護者や関係者が補助器具を自作するケースはまだ少ない



わが国の 子ども用車椅子の現状



首都圏の多くの特別支援学校の PTA が
会員に呼びかけて不要になった車椅子を
集めて提供してくれている様子

わが国では、多くの身障者（肢体不自由者）が健常者と共存して、幼児から障害を持っている子どもは、自分専用の車椅子を保有しています。子ども用車椅子専門メーカーも存在し、理学療法士・作業療法士や医師からのアドバイスも受けられ、かつ国、都道府県、市町村からの補助金（保護者の収入によるが、通常 9 割補助）があり、その子どもひとりひとりの身体の状態に適した車椅子をオーダーすることができます。

しかし子どもの成長は早く、車椅子はすぐに身体に合わなくなってしまいます。成長とともに容態も異なってきますので、20～30 万円と高価な車椅子を 3～4 年で買い換えることになります。今まで使った車椅子は補修整備すればさらに十分使うことができる場合でも、廃棄されてしまいます。子ども用車椅子の場合リサイクル中古品には需要がありません。なぜなら中古品に補助金は出ませんので、補助金を申請して新しく買い換えたほうが保護者には負担が少ないという実情があり 3～4 年しか使っていない非常に状態の良いものが廃棄処分されています。



日本では…



子どもの成長に合わせて3～4年で買い換える



ほとんどが廃棄処分される

大人用の車椅子は量産品で（1台2～4万円位）移動や介護用が目的で、通常壊れるまで使われます。子ども用車椅子は、出産時や幼児期に発症する脳性麻痺、脊髄損傷、事故などによる肢体不自由児が主な対象で、子どもの症状や体形に応じて注文で作られる医療補助器具（20～30万円位）です。肢体不自由児用の車椅子は、子供の成長によって3～4年で適しなくなると新しいものに買い換えられます。それまで使われていた車椅子は、さらに十分使うことが出来るので、当会はこれらの子ども用車椅子を補修整備して海外の子どもたちに送る活動をしています。

当会は発足当初、使われなかった大人用も収集しましたが、錆びていたり壊れたものが多く、整備不能で廃棄処分をせざるを得ませんでした。当会としては、大人用を収集や整備部品費用さらに海外へ送る輸送コストを加えて届けるよりも、現地で新品（中国製や現地生産品）を安価に入手することができることもあって、大人用中古車椅子を海外へ送ることをやめた経緯があります。

日本と発展途上国の課題解決のためのプロジェクト

☆日本では高価な子ども用車椅子が、十分に使用できる状態のものでさえ、廃棄処分されている。このモッタイナイ現状―課題を発展途上国の子どもに届ける NPO 活動により、人道支援、資源のリユースを実現しながら解決する。

☆発展途上国で不自由な生活を送っている子どもたちには、適合する車椅子を NPO 活動で届けるという課題解決で、健やかに成長できる社会生活に向け支援する。

当会の使命と国内での事業内容



高校生、大学生、会社員、シニア、
在目外国人グループ、ロータリークラブなど
多くのボランティアが参加している定例会

当会の使命

- ①海外の子ども達に動く喜びと笑顔を届ける
- ②資源循環型社会に向けて有効なリサイクル活用を図る
- ③障害者の福祉と自立支援をして差別のない社会を作る

I

車椅子収集事業

わが国では廃棄処分されている車椅子は非常に状態がよく、洗浄し修理整備すれば 新品同様に使用できるのがほとんどです。そこで当会は首都圏にある 51 の特別支援学校の PTA や学校、養育センターなどに呼びかけて、モッタイナイと廃棄処分に困っていた車椅子を無償で提供いただいています。現在では PTA の活動として会員に呼びかけて収集して、当会へ連絡いただき、業者にトラックを手配し整備する場所まで運搬しています。さらに車椅子メーカーが買い替え時に、不要になった車椅子を提供してくれます。また、当会ホームページで知って、個人が不要になった車椅子を持参される方も増えています。最近では関西の特別支援学校からも送ってこられます。



Ⅱ 車椅子整備事業

毎月当会の活動例会で収集した車椅子を、高校生、大学生、CSR 活動として企業からの社会人、ボランティア、さらに在日外国人が参加して、車椅子メーカーやシニア技術者の指導で車椅子の安全性と耐久性に留意して、洗浄、修理整備を行っています。

海外で使われる子どもの笑顔を目に浮かべながら、心を込めて整備しています。

最近ではパンクしにくいように、タイヤに特別なジェルを入れるなどの処理をしています。



Ⅲ 車椅子発送事業

車椅子一台毎に管理番号をつけて、サイズや特徴を記したリストを作るために写真を取り、重量を計測してから、輸送時に破損しないようにプラスチックのエアークッションやガムテープで梱包し、管理番号を表に書き加えます。そして倉庫に保管して、出荷時にコンテナに積み込んで港から船で目的地まで運びます。その間に現地パートナーに必要な書類を送り、スムーズな現地の輸入通関の手続きをすすめます。



Ⅳ 広報事業

当会が多くの個人や団体の支援をいただいて、車椅子を確かに届けている活動してどんな効果と評価があったかについて、感謝の気持ちを込めて報告するために、当会のウェブサイトに掲載するとともに年間 3～4 回「活動レポート」発行しています。

支援していただいた方々から当会活動への共感が得られたか、さらに広報を通じてはじめて当会の活動を知って何かできるか感じていただけるよう広報活動にも努めています。これまでに国内外の多くの新聞やテレビにも紹介されました。

当会ウェブサイト kaigaikurmaisu.org/



海外での事業内容 ～持続的発展のために～



生まれて初めて車椅子に乗って喜び
ヤンゴン子ども病院の子ども達

File No: _____

AGREEMENT
on wheelchairs provided by Japanese NGO

Child with Mobility Difficulties

1. Full name: _____ Sex: male/female _____
2. Date of Birth: _____ Age: _____
3. Address: _____ Tel: _____
4. Education level: _____
5. Cause of being handicapped: _____

Wheelchairs rented Plate No: _____
Receiving date: _____
Rental period: from / / 2011 to / / 2020

We, the undersigned, agreed as guarantors that

i) We and our child shall use it properly and responsibly with utmost care to develop our child physical movement and to socialize with the others, keeping in mind that other children may still use it.

ii) We will request you to repair in case of any damage or breakdown, without leaving aside, being unrepaired.

iii) If our child shall no longer need it, we undertake to return back it to the association without notification

iv) We shall neither give it to the other, nor dispose it.

Names and Signatures of the Guarantors _____

Date: _____

I 海外のパートナーとの事業

当会と使命と目的を共有でき、車椅子を必要とする子どもに適合するものを貸与して、責任をもって管理できる団体であることを条件に、覚書を交わしています。

- ①車椅子を送る前に、全ての車椅子の管理番号、写真、サイズ、重量、機能、特徴を記したデータを送り、物理療法士などの指導を受けて適合する子どもの選択をする。
- ②車椅子は受益者の保護者と貸与契約を交わして、適合しなくなったら返却することを確認する。



▲保護者との貸与契約書

▲車椅子写真データ

海外パートナー選定基準

1. 原則として、ODA 援助対象の発展途上国で活動する団体である。
2. 当会のミッション、目的を理解し賛同して当会と協力して活動できる団体であること。
3. 利益を目的としない NGO、財団、地方自治体、病院、養護施設などの組織団体、政治的、宗教的活動を主たる目的としない団体であること
4. 輸入に際して、輸入許可、輸入税免税申請などの手続き行い、関係当局と折衝し認可を取得できる事務能力がある団体であること。
5. 確実に現地で受け入れて、(当会とともに、あるいは、当会に代わって) 責任を持って無償で必要度の高い病院、養護施設、リハビリテーションなどに適切に供与できる団体であること。
6. 当会に代わって (あるいは共同で)、現地で引渡し式 (贈呈式) を行い、当会の国際協力貢献を広報できる団体であること。(当会の支援団体に対する義務と責任がある)。
7. 現地で必要度の高い受益者団体 (養護施設、病院、リハビリセンターなど) を選定し、適切な維持管理ができ、適確に使われているか追跡調査できる団体であること。
8. 国際理解と協力を効果的に推進し、日本の NGO や日本人の使命の背景や考えなどを容易に理解し、迅速かつ柔軟な対応が出来て、多少でも日本との関係がある団体が望ましい。
9. 当会と上記の内容について確認の覚書を交せる団体である。

- ③日常の管理やモニタリングのための貸与した受益者名簿を作成し管理する。
- ④車椅子を安全に使い、維持修理に対応できるようにサービスマニュアルを提供する。
- ⑤修理に必要な部品は当会から無償で送る。
- ⑥プロジェクト完了後毎年車椅子のモニタリングと効果の評価をして当会に報告する。

Ⅱ 受益者の保護者に対して留意事項

- ①車椅子は貸与されたもので適合しなくなったら現地団体に返却すること。
- ②次の人を思い、車椅子のほこりやごみなど取り除き、常に清潔に使うこと。
- ③快適な乗り心地とタイヤ破損を防ぐために、常にタイヤに十分な空気を入れる。
- ④車椅子を使う時は、いつもブレーキなど安全に使うことを心掛けること。
- ⑤故障したらほとんどの自転車店は修理できるので、直してもらう。
- ⑥自転車店が近くにはない時は、破損のまま放置せず、現地団体に連絡すること。

Ⅲ 車椅子を大切に使ってほしいとの願いを込めたステッカー

当会の車椅子にはすべて当会のステッカーと管理番号を貼っています。このステッカーには、日本の障害児の保護者から海外の恵まれない子ども達に動く喜びを分かち合いたいとの願いを込めて無償で提供され、その車椅子を当会の活動に賛同するボランティアが車椅子を活用することによって子どもや家族に笑顔が生まれることを期待して、心を込めて洗浄・整備・梱包作業をして梱包してコンテナで送り出していることを表しています。収集費用や整備費用、国内及び海外輸送費さらに現地で配布する費用も日本の支援者や団体からの寄付の支援を受けています。From Japan with Love は大切に使ってほしいとの日本からの願いです。



事業の上位目標と期待される効果

障害児が車椅子を活用することによって、自由に移動や外出ができるようになります

- ア) 身体機能と座位保持の正常化
- イ) 身体的・精神的な健康の向上
- ウ) 生活環境の改善
- エ) 自立支援と社会参加への助長
- オ) 家族・介護者の負担軽減

を図ることができます。この効果として、地域ぐるみでのリハビリ治療、教育、職業訓練など、幅広い継続的な社会開発プログラムの発展が期待されます。

IV 海外事業のモニタリング調査と評価報告



海外パートナーからの報告書の一部



海外パートナーからの報告の主な共通事項

1. 車椅子で筋肉や骨の発達が改善した。体に合って長持ちし使いやすい。
2. 家族の介護の負担が軽減した、地域の人との交流も増えた。
3. 遠くへ行きたいが凸凹道や湿地では、使いにくく前輪が壊れやすい。
4. 故障したら修理するところが遠く、交通費も高いので行けない。
5. 車椅子を必要とする子どもは多く継続して支援してほしい。
子どもが大きくなったら代りが必要になる。

車椅子効果の成果を測る指標のために 海外パートナーが調査実施した例

総合評価として A=20ポイント、B=10ポイント、C=0
として合計ポイントがA(80以上)=優れた成果、B(40以上)
=良い成果、Cそれ以下=成果が乏しい、として総合評価する。

1. 子どもが座位を保持し、筋肉や骨の矯正の助長
A 十分助長できた B 助長出来ている C 助長できていない
2. 屋外に出て新鮮な空気を吸い、紫外線にあたる頻度
A 大変多くなった B やや多くなった C あまり増えていない
3. 子どもの通学や通院
A 行けるようになった B やや行けるようになった C 依然と変わらない
4. 家族の介護の負担
A 大いに軽くなった B 軽くなった C あまり変わらない
5. 友達や地域の人との交流
A 大いに増えた B 少し増えた C あまり増えていない
6. 車椅子の状態
A 良好な状態 B 不具合なところがある C 修理の必要あり

主な海外のパートナー

マレーシア	ALEPS (東方政策元留学生同窓会)
ベトナム	ベトナム赤十字
フィリピン	JVR (教育福祉) 財団
カンボジア	社会福祉省 障害者支援局
インドネシア	CBR 開発訓練センター (ジャワ中部)
エチオピア	チェシャ (障害者支援) 財団
タイ	タイ肢体不自由者協会
ネパール	CBR サービス ポカラ
ミャンマー	国立リハビリ病院 ヤンゴン子ども病院
ラオス	ラオス障害者支援協会
インド	JVS障害者支援協会 (インド北部)

V 車椅子を届けた家族を訪ねて

当会は現地で車椅子が必要な子どもに届き、どのように活用されているか家庭を訪問して確かめています。



インドネシア ソロ



ベトナム タンホア



フィリピン ビガン



カンボジア シェムリアプ



エチオピア デシエ



ミャンマー ヤンゴン



インド バラナシ



ネパール ポカラ



エチオピア デシエ

「日本の皆さんありがとう。お礼を伝えてください。」

「素晴らしい車椅子を貰ってから生活が変わった。今まで家の中の床でただ横になっているだけだったが、外に出られ人と会えるようになった。」

「家族の負担が減って家事などの仕事がしやすくなった。」

「家の中で一番の宝ものだ。」

「容易に戸外に出られて、新鮮な空気に触れ、日光浴が出来て大喜び」

当会の実績と 自己評価

インドの JVS 障害者支援財団で
車椅子贈呈式のあと日本への
感謝を込めてグループ写真撮影



当会は 2004 年に設立し、2006 年に NPO 法人化して 10 年が経過、これまでに 23 ヶ国 5,969 台（2017 年 1 月末現在）の車椅子を恵まれない子ども達に届けることが出来ました。これまで 10 年間の活動の成果とその評価をご報告します。

I

障害児のための自立支援と 人権尊重をめざす地域社会に不可欠な車椅子

当会が提供する障害児用医療機器である車椅子を海外の肢体不自由の子どもが利用することで、自由に移動や外出ができることとなり、身体的精神的な健康の向上と自立支援さらに社会参加が助長されるようになりました。家族や介護者の介護の負担も軽減されました。

発展途上国では障害児の約 80% が医療施設の整っていない農村地域に住んでおり多くの障害児は家の中に置き去りにされています。車椅子を利用することによって容易に屋外に出られ地域の人と交流でき環境に適応できるようになりました。それによって地域社会全体が障害者の人権を認め、健常者と平等に自立できるように支える社会を実現するために車椅子が必要不可欠なツールであることが認識されました。

II

地域ぐるみの障害者支援に対する 社会開発へインパクトをあたえる包括的活動

当会は地域の限定なく個人別に対応をして単に車椅子を寄贈するのではなく、各国で C B R（地域で根ざした包括的なリハビリ活動）を実践している受入団体と連

携して、障害児用車椅子を地域のコミュニティに対して車椅子を提供して、地域社会全体として障害の課題を解決していく活動にインパクトを与えるプロジェクトをおこなっています。

地域のソーシャルワーカーやボランティアが障害児の家庭を巡回訪問して、車椅子を活用して効果的なリハビリ治療や教育サービスも行えるように、受入団体と協力して支援しています。さらに地域の人々に対して障害への理解と啓発や障害予防のための教育を行い、地域ぐるみで包括的な社会開発に貢献しています。

Ⅲ

持続的なプロジェクトのために 車椅子の修理保守の技術指導とノウハウ提供

現地受入団体は車椅子の配布先（受益者）名簿を的確に管理して、車椅子が子どもの成長によって適合しなくなったら、次の車椅子を必要とする子どもに渡し受益者をふやす仕組みを作っています。車椅子を大切に長く使うために、当会は現地で引渡時に地域の車椅子の管理責任者を対象にワークショップを開き、現地語（インドネシア語・ベトナム語・クメール語・英語など）の修理マニュアルを作成し技術指導と技術移転をして適切な保守修理ができるようにしています。

必要に応じて部品を日本から無償で作り、迅速に修理ができるようになる仕組みを作りました。

また現地で補修整備のための技術移転や製造のノウハウなどの提供をしています。

Ⅳ

草の根レベルで国際交流の推進と人材の育成

日本の障害児の保護者は不要になった車椅子を数年で廃棄することにモッタイナイと思っていましたが、当会の活動を通じて海外で車椅子を必要とする障害児に届けて、活用されるようになり、海外の母親たちと子どもが動ける喜びを分かちあえ、人と人との絆が強くなりました。

また整備活動を行う例会には大学生や企業のボランティア、在日外国人（ベトナム・エチオピア・ネパール・マレーシア等）が参加し、国際交流が活発に行われています。また活動に参加したボーイスカウトや大学生が現地で引渡式に出席して、現地の障害者の家庭を訪問して交流が活発になり、国際交流の人材育成に寄与しています。

V

モニタリングとプロジェクトの効果の評価実施で 持続的発展性のあるプロジェクト

車椅子がどのように活用され、生活がどのように変化したか、適切に車椅子が維持管理されているか、そして地域社会にどのようなインパクトを与えているかを現地受入団体と管理名簿を確認し、随時現地でモニタリング調査を行って、持続的発展性のあるプロジェクトとしての検証と評価をしています。

子ども用車椅子提供から次のステージへ

発展途上国では、障害者の70～80%は農村部に居住しています。しかし医療機関が都市部に集中しているために、医療機関からサービスを受けている障害者は1割にも満たないのが現状です。

地域に根差したリハビリテーション（CBR = Community Based Rehabilitation）の考え方が国連・WHOによって1980年代に提唱され、アフリカやアジアの多くに国で実践されています。

地域社会が一体となって、自分達の地域で生きる障害者の問題を理解し、障害者が自立して生活ができるような社会を作るために、地域のボランティアやソーシャルワーカー等が、家族や地域の人でリハビリ等の治療や教育が地域でできるように必要な知識や技能の指導をしたり、自立支援のための職業訓練を行い、さらに障害者の人権を尊重のための啓蒙や障害予防の知識を高める活動等を行っています。当会の海外のパートナーの多くはCBRの活動をしています。

当会は海外のCBRを実践しているパートナーと障害者支援の社会開発にたいして、日本のNGOとして、日本の医療機器の機能を持った障害児車椅子を提供して、障害者の治療、教育ができ、社会参加そして自立活動が容易にできるように草の根レベルの人道支援活動を続けてきました。

しかし、モノを提供するだけの活動に限界を感じ、持続的発展性のあるプロジェクトとして、ハード（車椅子）だけの提供でなく、それぞれの国で車椅子の修理保全が十分できるノウハウ、部品の支給、整備作業場の設備支援や治工具の提供、さらには現地で製造するための技術移転などができるように、海外のパートナーからも現地や日本での研修を行ってほしいとの要望が出てきました。これからは要望を受け入れてソフト（技術）の提供をして、それぞれの国で障害児用車椅子が生産できるような経済的社会開発に支援をしていくことを検討していきたいと考えています。

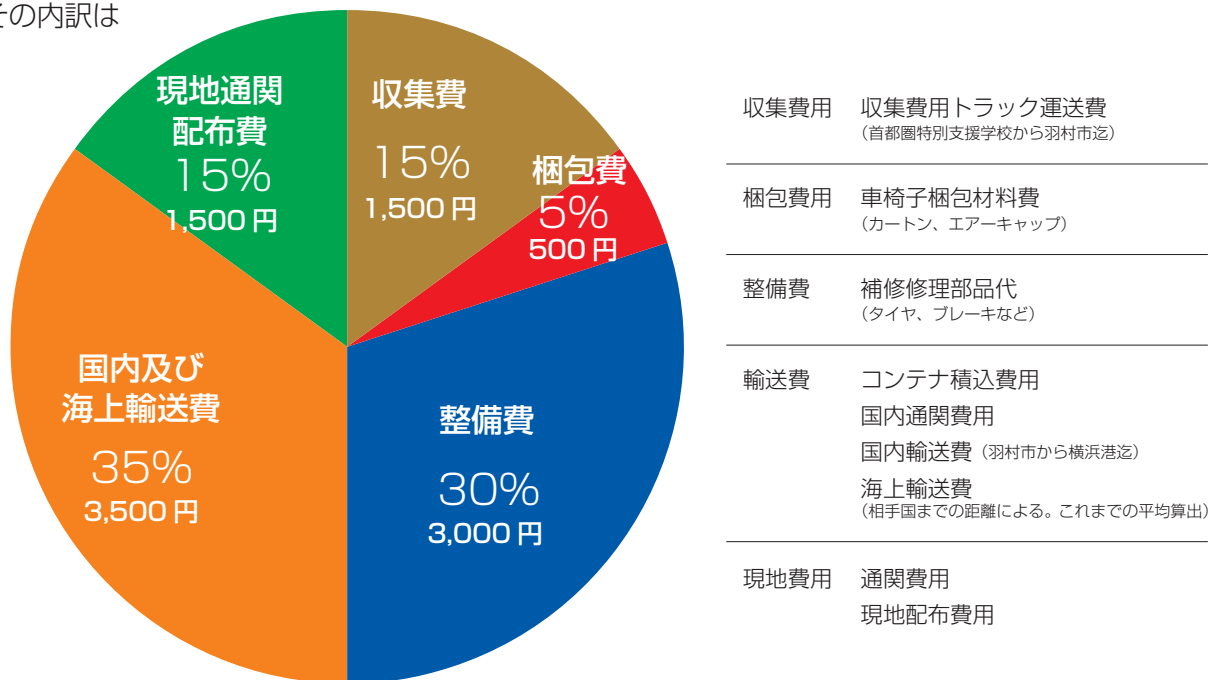


当会の技術支援で子ども用車椅子の整備と製造工場が軌道に乗ってきたマレーシアの ALEPS Dream Factory

数字とメディアで語る 当会の活動内容

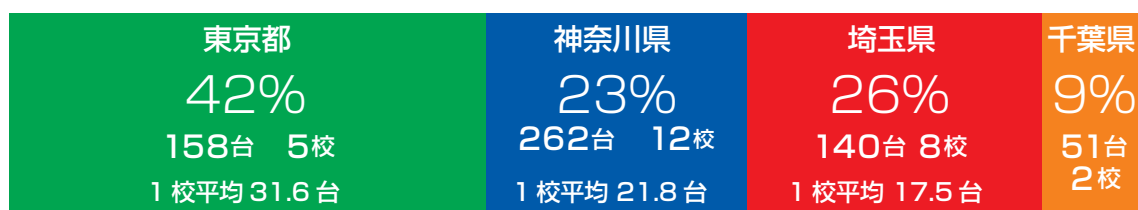
I 車椅子 1 台を海外へ届けるには約 1 万円かかる（過去実績から平均計算）

その内訳は



II 車椅子収集の都県別割合

2014～16年平均・台数・学校数 年間平均台数 619 = 1校平均 23台



III 当会の活動資金

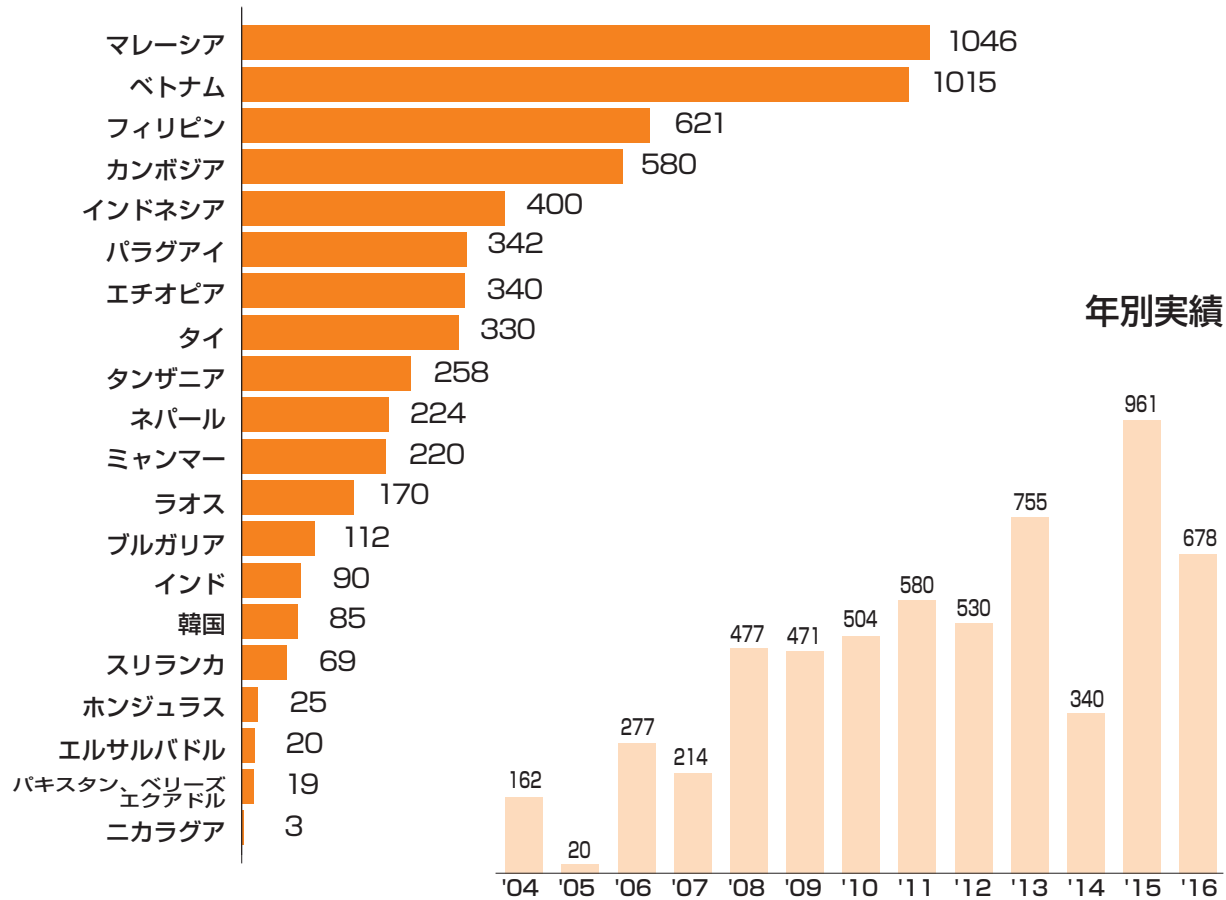
これまで 10 年間の総収入累計金額 7260 万円 その内訳は



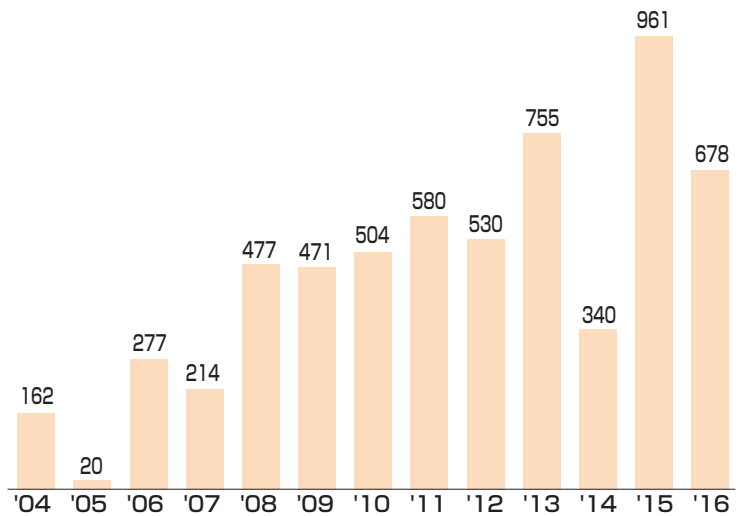
IV 贈呈実績

(2017年1月現在 総数:5,969台)

国別実績



年別実績



V 海外メディアでの紹介記事

マレーシア、ベトナム、インドネシア、カンボジア、インド、タンザニアなどで掲載

Malaysia: 2017年1月現在、総数:5,969台



Vietnam: 2017年1月現在、総数:5,969台



Indonesia: 2017年1月現在、総数:5,969台



Cambodia: 2017年1月現在、総数:5,969台



「海外の子に車いす」着々



病に学び「光届けたい」

福生のNPO

成長で買い替えるの不用分 3年で649台

「海外の子に車いす」着々
福生のNPO

車いす 海外の子に1000台

福生のNPO会長・森田さん



収集した中古の子ども用車いすを森田さんと

余命宣告で「他人の役に」

余命宣告を受けた森田さんは、NPO法人「海外の子に車いす」を設立し、海外の子供たちに車いすを送る活動を行っています。余命宣告を受けた後、森田さんは「他人の役に立つことが生き残りの意味だ」と考え、この活動に専念することになりました。

いす

余命宣告を受けた森田さんは、NPO法人「海外の子に車いす」を設立し、海外の子供たちに車いすを送る活動を行っています。余命宣告を受けた後、森田さんは「他人の役に立つことが生き残りの意味だ」と考え、この活動に専念することになりました。

余命宣告を受けた森田さんは、NPO法人「海外の子に車いす」を設立し、海外の子供たちに車いすを送る活動を行っています。余命宣告を受けた後、森田さんは「他人の役に立つことが生き残りの意味だ」と考え、この活動に専念することになりました。

海外に子ども用車椅子を送る会

主に福祉の文書が不足している国を対象に日本で作成した車椅子の写真を提供し、海外の子供たちに車椅子を送る活動を行っています。

海外に子ども用車椅子を送る会
主に福祉の文書が不足している国を対象に日本で作成した車椅子の写真を提供し、海外の子供たちに車椅子を送る活動を行っています。

「使い捨て」はおかしい



励まし合う気持ち込め

海外に子ども用車椅子を送る会

海外に子ども用車椅子を送る会
主に福祉の文書が不足している国を対象に日本で作成した車椅子の写真を提供し、海外の子供たちに車椅子を送る活動を行っています。

毎日新聞2005年11月16日

善意 海を越え

善意 海を越え
福生のNPO法人が105台

善意 海を越え
福生のNPO法人が105台

読売フルデンシャル福祉文化賞
「車椅子送る会」に奨励賞

子ども用車いすを整備する森田さん(中央)と、活動を目指す二男の健也君(左)

読売フルデンシャル福祉文化賞
「車椅子送る会」に奨励賞

読売新聞2006年12月18日

産経新聞2006年5月30日



海外に
子ども用
車椅子を
送る会

ご
寄
付
の
振
込
先

郵便局から 郵便振替口座 00130-9-389966 海外に子ども用車椅子を送る会

銀行から りそな銀行 福生支店 口座番号 4145946
口座名 カイガイニコドモヨウクルマイスヲオクルカイ モリタヒロカス
海外に子ども用車椅子を送る会 森田祐和

特定非営利活動法人 海外に子ども用車椅子を送る会

〒197-0012 東京都福生市加美平3-7-1 Tel 042-553-2342

Email info@kotobukiya.com URL: www.kaigaikurumaisu.org

2017年3月発行